

道徳通信かがわ

第35号

平成30年12月6日(木)

香川県教育委員会事務局
義務教育課

「道徳科では何を評価すればいいの？ どう記述すればいいの？」

小学校で道徳の教科化が始まった当初、そのような声が多く聞こえてきていました。

それからおよそ9か月。今、各学校では、評価につながる実践が蓄積されています。その中から2事例を取り上げて紹介します。

授業の充実は、評価の充実

一つは、小豆島町立池田小学校の実践です。

教室の背面には、これまで行ってきた授業の教材名と、そこでの学びのキーワードが掲示されていました。

児童は、学期の終わりにこの掲示を振り返り、最も心に残っている教材を選んで、自分の思いを書いたカード（写真の中のハート型のもの）を貼るようになっていました。



【小豆島町立池田小学校の実践から】

もう一つは、高松市立香東中学校の実践です。

2年2学期「道徳の授業を振り返って」			
番号	教材名	テーマ	主な内容や考えたこと (中心的な発問)
10	「あなたに」	D-(19) 生命の尊さ	自分が今ここにいることの不思議さや生命の連続性に気づき、かけがえのない存在であることに誇りをもち、自他の生命を尊重しようとする心を育てる。 (「生まれてきてくれてありがとう」という言葉には、どのような思いがこめられているのだろうか。)
11	「ゴール裏の青春」	A-(3) 向上心・個性の伸長	自分にとっての充実した生き方を求め、個性を伸ばして自分自身を生かそうとする態度を育てる。 (「球拾い」ではなく「背番号12」とした息子は、どんな思いがあったのだろうか。)

【高松市立香東中学校における平成29年度の実践から】

このような振り返りを通して書かれた児童生徒の記述からは、それぞれが大切にしてきた学びや道徳的価値などが見えてくるでしょう。これは、教師にとっては児童生徒の学習状況等を把握する一つの手立てとなり、児童生徒にとっては自分を見つめ直し、これからの自分自身をさらに考えていくための機会になることでしょう。

この二つの実践のどちらにも共通して言えることは、道徳の授業の量的確保、質的転換がなされているということです。毎回の授業の充実を図ってその足跡を残し、児童生徒に示すことは、プレッシャーでもありますが、張り合いにもなります。

このような取組が、次年度さらに生かされ、広がっていくことを願っています。

左のような振り返りシートで、学期ごとに学習を振り返っていました。「主な内容や考えたこと」には、その授業での中心的な発問を記載し、生徒がその授業を想起しやすいようにしています。生徒は、これを見ながら学びを振り返り、自分の考えに影響を与えた教材、感動した教材等について、考えたことや感じたことを記述するようにしていました。